

## ルカーチ邦訳リスト

丸 山 珪 一

本稿は、ルカーチ・ジェルジ (Lukács György 1885–1971, ドイツ名ゲオルク・ルカーチ) の邦訳の完全なリストを目指している。欠落、誤記等にお気付きの方は、ぜひとも御教示下さるようお願いする次第である。抄訳及び部分訳は、原則として収録していないが、歴史的・先駆的意義をもつと判断したものについては収録されている。

配列は、発表された年の順に従っている。同じ年の中での先後関係は、まったく考慮されていない。書物形式で発表されたもの(小冊子を含む)は、タイトルに「 」が付されている。タイトルだけでは判断しにくいと思われる内容について、及びその他最小限必要な事項について、注釈を施した(\*印)。

項目の末尾のアルファベットは、翻訳テキストの原語を示している。使用した記号は、次の通りである。(D) ドイツ語, (R) ロシア語, (F) フランス語, (T) チェコ語, (E) 英語, (I) イタリア語, (H) ハンガリー語。

## ●1927

- 1 「階級意識とは何ぞや —— 『歴史と階級意識』階級意識論 ——」  
水谷長三郎・米村正一訳, 同人社, 80 p. (D)
- 2 「レーニン」  
大井元訳, 白楊社, 176 p. (D)
- 3 「組織の方法論」  
小林良正訳, 白楊社, 120 p. (D)

## ●1933

- 4 ラッサールの文学理論の批判  
浅川茂一訳, 「批評」第2号所収, p. 82–92 (D)
- 5 ゲルハルト・ハウプトマン論  
野村繁雄訳, 「批評」第2号所収, p. 93–107 (D)

## ●1934

- 6 「ジッキンゲン」をめぐるマルクス=エンゲルスとラッサールとの論争

上田進訳, 同訳編「マルクス＝エンゲルスの芸術論」所収, 岩波文庫,  
p.144-218 (R)

●1935

7 小説の理論の問題(1)

熊沢復六訳, 「世界文化」8月号所収, p.33-42 (R)

\* <小説の理論>をめぐる討論へのルカーチの報告, [8]に収録

●1936

8 討論のための報告演説

結語

熊沢復六訳, コム・アカデミー文学部編「小説の本質(ロマンの理論)」所収,  
清和書店, p.7-28, p.177-184 (R)

9 「唯物論と経験批判論」の政治的意義

永田広志訳, 『『唯物論と経験批判論』研究』所収, ナウカ社, p.174-184  
(R)

10 トーマス・マンと文学的遺産

水野訳, 「世界文化」10月号及び12月号所収, p.13-16, p.28-32 (D)

\* 水野=和田洋一

●1937

11 ファシズムとゲーテ

斎藤静馬訳, 「ゲーテ研究」所収, 萩原星文館, p.71-86 (D)

12 ゲーテの世界観

中野大次郎訳, 「ゲーテ研究」所収, 萩原星文館, p.316-331 (D)

13 ブルジョア叙事詩としての長編小説

熊沢復六訳, 「短編・長編小説」所収, 清和書店〔文芸百科全書〕, p.97-189  
(D)

●1938

14 「歴史文学論」

山村房次訳, 三笠書房〔文化と技術叢書18〕, 299p. (R)

\* 歴史小説の古典的形式; 歴史小説と史劇; 歴史の<現代化>について——フ  
ロオベルと歴史小説

15 スタンダールの批評家としてのバルザック

熊沢復六訳, 同訳編「リアリズム論争」所収, 清和書店, p.127-164 (R)

●1940

16 トルストイ美学における平民的ヒューマニズム

花本好児訳,「現代文学」2月号所収, p.38-45 (D)

●1946

17 ゾラとリアリズム

長崎廣次訳,「世界文学」第1号所収, 世界文学社, p.53-60 (F)

●1951

18 「ドイツ文学小史」

道家忠道・小場瀬卓三訳, 岩波書店〔岩波現代叢書〕, 278 p. (F/D)

●1952

19 「ゲーテとその時代」

笹本駿二訳, 中央公論社, 287 p. (D)

\* ファウスト研究

●1953

20 「実存主義かマルクス主義か」

城塚登・生松敬三訳, 岩波書店〔岩波現代叢書〕, 314 p. (F/D)

\* 序文; ブルジョア哲学の危機; 現象学から実存主義へ; 実存主義道徳の行き  
づまり; レーニンの認識論と現代哲学の諸問題

\* 他にハイデッガー復活(紹介)を収録

21 マルクス=エンゲルスの芸術論序説

針生一郎訳,「日本文学」9月号及び10月号所収, p.51-61, p.55-64 (D)

22 芸術史の著述について

鈴木祐八訳,「人民文学」第5号所収, p.174-180 (E)

●1954

23 「芸術論」

相原文夫訳, 社会書房, 288 p. (D)

\* 文学理論家および文学批評家としてのフリードリヒ・エンゲルス; 世界観と  
創作方法(ジッキンゲン論争); マルクスとイデオロギー的頹廢の問題; 革命  
家か官僚か

24 「ゲーテ研究」

菊盛英夫訳, 青木文庫, 278 p. (D)

\* 序; 若きウェルテルの悩み; ウィルヘルム・マイスターの修業時代; 「ファウ  
スト」研究

25 「リアリズム論」

伊東勉・小森潔訳, 理論社, 192 p. (D)

\* リアリズム論; アンナ・ゼーガース=ゲオルク・ルカーチ往復書簡; 作家と

## 批評家

- 26 「トルストイとドストイェフスキ」  
佐々木基一訳, ダヴィッド社〔ダヴィッド選書〕, 205 p. (D)  
\* ドストイェフスキについて; トルストイとリアリズムの問題; トルストイと世界文学
- 27 「小説の理論」  
原田義人訳, 未来社〔未来芸術学院11〕, 183 p. (D)
- 28 マルクス=エンゲルスの芸術論文への手引 (ハンガリア語版への序文)  
マルクス=エンゲルス選集刊行会訳, 「マルクス=エンゲルス文学・芸術論」所収, 大月書店, p. 559-579 (D)
- 29 上部構造としての文学  
マルクス・エンゲルスのドラマトウルギー  
針生一郎訳, 同訳編「リアリズム芸術の基礎」所収, 未来社〔未来芸術学院1〕, p. 143-158, p. 159-198 (D)  
\* 1961年に改裝版

## ● 1955

- 30 「バルザックとフランス・リアリズム」  
男沢淳・針生一郎訳, 岩波書店〔時代の窓〕, 182 p. (D)  
\* 序文; 「農民」; 「幻滅」; スタンダールの批評家としてのバルザック; ゾラの生誕百年祭にあたって
- 31 「歴史小説論」  
山村房次訳, 青木文庫, 278 p. (R)  
\* 〔14〕の改訳増補
- 32 「階級意識論」  
平井俊彦訳, 未来社〔社会科学ゼミナール3〕, 135 p. (D)  
\* 〔48〕に収録
- 33 国民詩人としてのハイネ  
佐藤静夫訳, 同訳編「ハイネ研究」所収, 青木文庫, p. 70-163 (D)

## ● 1956

- 34 「理性の破壊」(上)  
飯島宗亨・暉峻凌三訳, 河出書房〔世界大思想全集, 哲学・文芸31(上)〕, 354 p. (D)
- 35 公式主義とパースペクティヴの問題  
神品芳夫・新村浩訳, 「世界文学」第9号所収, 世界文学会, p. 1-6 (D)

## ●1957

## 36 「理性の破壊」(下)

飯島宗亨・竹内良知・阿閉吉男・藤野渉訳, 河出書房〔世界大思想全集, 哲学・文芸31(下)], 316 p.(+20 p.) (D)

## 37 「世界文学におけるロシア・リアリズム」

西牟田久雄・直野敦訳, 洋々社〔現代哲学叢書V〕, 323 p. (D)

\* 第一版および第二版への序文; 第三版への序文; 世界文学におけるプーシキンの位置; 「ボリス・ゴドゥノフ」; 革命的民主主義文学批評の世界的意義; チェルヌイシェフスキーの長編小説「なにをなすべきか」; 解放者; <革命前のロシアの人間喜劇>

## 38 「現実と逃避」(運命の転回1)

真下信一・藤野渉・竹内良知訳, 平凡社, 225 p. (D)

\* まえがき; ドイツ・ファシズムとニーチェ; ドイツ・ファシズムとヘーゲル; プロシャ主義について; 文学的遺産にかんするトーマス・マンの意見; 現実と逃避; ヒトラー・ドイツの生んだ二つの小説; 追放された詩; 人類進歩の敵としての人種妄想

## 39 「共産主義」誌編集部への手紙

根岸良一訳, 「反マルクス主義批判」所収, 書肆パトリア, p.207-209 (F)

## 40 思想的自伝

清水幾太郎訳, 講座「現代思想」別巻(歴史・人間・思想)所収, 岩波書店, p.249-266 (D)

\* マルクスへの私の道及びその追って書き

## 41 上部構造としての文学

ヴェルテル論

熊谷恒彦訳, 「世界芸術論大系」9(ドイツ現代)所収, 河出書房, p.225-233, p.233-247 (D)

## 42 「ドストエフスキー論」

重原淳訳註, 大学書林語学文庫, 86 p. (D)

## ●1958

## 43 「若きマルクス」

平井俊彦訳, ミネルヴァ書房〔社会科学選書12〕, 203 p. (D)

## 44 「組織論」

相沢久訳, 未来社〔社会科学ゼミナール21〕, 155 p. (D)

## 45 「病める芸術」(運命の転回2)

真下信一・藤野渉・竹内良知訳, 平凡社, 227p. (D)

- \* 内なる光は濁りきった照明法である; 運命の転回; ブルジョアジーは何のために絶望を必要とするか; 健全な芸術か病める芸術か; 1914年から1918年までの帝国主義戦争についてのアルノルト・ツヴァイクの連作小説; ヨハネス・R・ベッヒャーの「別離」; ベッヒャーの抒情詩; 知識人の責任について; (付) マルクスへの私の道

## ●1959

### 46 今日の文化における進歩と反動の闘争

誤解されたりアリズムに反対して(まえがき, 序論)——批判的リアリズムの今日的意義——

富田弘訳, 藤野渉編「現代思想としてのマルクス主義——ルカーチとの対決」所収, 大月書店〔現代マルクス主義双書〕, p. 161—198, p. 199—210 (D)

## ●1960

### 47 「病める芸術か, 健康な芸術か」

片岡啓治訳, 現代思潮社, 314 p. (D)

- \* ルカーチ=トーマス・マン往復書簡; 序文; 市民を求めて; トーマス・マンの長編小説「大公殿下」; 近代芸術の悲劇; 演劇的なものとその背景; 病める芸術か健康な芸術か

## ●1962

### 48 「歴史と階級意識」

平井俊彦訳, 未来社, 357 p. (D)

- \* 物象化とプロレタリアートの意識; 階級意識論

## ●1963

### 49 「トーマス・マン論」

片岡啓治訳, 現代思潮社, 314 p. (D)

- \* [47] の改装版

### 50 小説の理論

原田義人・佐々木基一訳, 「世界教養思想全集」9 (近代の文芸思想) 所収, 河出書房新社, p. 267—374 (D)

- \* [27] の改訳

## ●1964

### 51 文学と創造的マルクス主義について (インタビュー)

栗栖継訳, 「文学」5月号所収, 岩波書店, p. 117—128 (T)

- \* 「リテラルニー・ノヴィニ」紙とのインタビュー

### 52 中ソ論争論

編集部訳,「社会主義政治経済研究所研究資料」第6号所収, p.10-29 (F)

●1965

53 中ソ論争について——理論的哲学的覚悟——

生松敬三・島康晴訳,「思想」1月号所収, 岩波書店, p.109-123 (D)

54 「レーニン論」

渡辺寛訳, 青木文庫, 127 p. (+ 8 p.) (D)

55 「ローザとマルクス主義——歴史と階級意識——」

平井俊彦訳, ミネルヴァ書房, 222 p. (D)

\* 正統マルクス主義とはなにか; マルクス主義者ローザ・ルクセンブルク; 史的唯物論の機能変化; 合法と非合法; ローザ・ルクセンブルク「ロシア革命批判」に対する批判的注解

56 知識人の責任について

健康な芸術か病的な芸術か

藤本淳雄訳,「世界文学大系」第96巻(文学論集)所収, 筑摩書房, p.475-480, p.480-485 (D)

●1967

57 技術と社会的関係

水野善明訳,「現代の理論」2月号所収, 河出書房, p.109-115 (E)

\* ブハーリン「史的唯物論の理論」(書評)

●1968

58 「ルカーチとの対話」(ホルツ, コフラー, アーベントロート)

池田浩士訳, 合同出版, 274 p. (D)

59 「リアリズム論」

伊東勉・小林忠治・小森潔訳, 理論社, 278 p. (D/R)

\* リアリズム論; アンナ・ゼーガース=ゲオルク・ルカーチ往復書簡; 作家と批評家; トルストイとリアリズムの問題

\* [25] の改訳増補

60 「美学I」(第一部 美的なものの特性)

木幡順三訳, 勁草書房, 360 p. (D)

61 「ルカーチ著作集」2 (小説の理論)

大久保健治・藤本淳雄・高本研一訳, 白水社, 392 p. (D)

\* 小説の理論; 批判的リアリズムの現代における意義; ドン・キホーテ

62 「ルカーチ著作集」9 (歴史と階級意識)

城塚登・古田光訳, 白水社, 558 p. (D)

\* まえがき；正統的マルクス主義とはなにか；マルクス主義者としてのローザ・ルクセンブルク；階級意識；物象化とプロレタリアートの意識；史的唯物論の機能変化；合法と非合法；ローザ・ルクセンブルクの「ロシア革命批判」についての批判的考察；組織問題の方法論

63 中ソ論争について

生松敏三・島康晴訳，河野健二編「現代人の思想13」(新しい歴史観)所収，p.160-181 (D)

\* [53] と同一

64 教条主義者は残らず敗北主義者である

「インタナショナル」9・10月号所収，刀江書院，p.48-52 (I)

\* 「クルトウルニ・ノービニ」誌(チェコスロヴァキア)とのインタビュー

65 表現主義の〈偉大さと頹廃〉

ブルジョア美学における調和的人間の理想

リアリズムが問題だ

ルカーチ＝ゼーガース往復書簡

池田浩士編訳，「表現主義論争」所収，盛田書店，p.13-68，p.105-123，p.141-186，p.191-238 (D)

● 1969

66 「ルカーチ著作集」1 (魂と形式)

川村二郎・円子修平・三城満禧訳，白水社，322 p. (D)

魂と形式〔エッセイの本質と形式について——レオ・ポッパーへの手紙；プラトン主義，詩そして形式——ルードルフ・カスナー；生における形式の破砕——セーレン・キルケゴールとレギーネ・オルセン；ロマン派の生の哲学について——ノヴァーリス；市民性と芸術のための芸術——テオドル・シュトルム；新たな孤独とその抒情詩——シュテファン・ゲオルゲ；憧憬と形式——シャルル＝ルイ・フィリップ；瞬間と形式——リヒャルト・ベークホフマン；富，混沌そして形式——ロレンス・スターンについてのある対話；悲劇の形而上学について——パウル・エルンスト〕；ゲオルク・ジンメル

67 「ルカーチ著作集」3 (歴史小説論)

伊藤成彦・菊盛英夫訳，白水社，586 p. (D)

\* 序文；ドイツ語版への序文；「全集」第六巻への序文；歴史小説の古典的形式；歴史小説と史劇；歴史小説とブルジョア・リアリズムの危機；民主主義的ヒューマンズムの発展の展望

68 「ルカーチ著作集」4 (ゲーテとその時代)



国松孝二・井上正蔵・近藤逸子・菊盛英夫・飯吉光夫・松本道介訳，白水社，527 p. (D)

\* 序文[「二つの世紀のドイツ文学」への序]; ミンナ・フォン・バルンヘルム; ゲーテとその時代[序; 「若きウェルテルの悩み」論; 「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」論; 「ファウスト」研究; ゲーテ＝シラーの往復書簡; シラーの近代文学論; ヘルダーリンの「ヒュペーリオン」; ハインリヒ・フォン・クライストの悲劇; アイヒェンドルフ]

69 「ルカーチ著作集」5 (ハイネからトーマス・マン)

国松孝二・大久保良一・井上正蔵・松浦憲作・小川超・立川洋三・青木順三訳，白水社，579 p. (D)

\* 十九世紀のドイツリアリストたち[序; ゲオルク・ビュヒナー; 国民詩人としてのハインリヒ・ハイネ; ゴットフリート・ケラー; ヴィルヘルム・ラーベ; 老フォンターネ]; トーマス・マン[初版への序; 市民を求めて; 現代芸術の悲劇; 遊戯的なものとその背景]

70 「ルカーチ著作集」6 (世界文学におけるロシアのリアリズム)

佐々木基一・大山聡・船戸満之・五十嵐敏夫訳，白水社，615 p. (D)

\* 第一版および第二版のための序文; 第三版のための序文; 世界文学のなかでのプーシキンの地位; 「ホリス・ゴドゥノフ」; ゴーゴリ没後百年祭記念講演; 革命的民主主義的文学批評のインターナショナルな意味; チェルヌイシェフスキーの小説「何をなすべきか?」; ドストエフスキー; トルストイとリアリズムの問題; トルストイと世界文学; 解放者; <革命前夜のロシアの人間喜劇>; 「静かなドン」; 「聞かれた処女地」

71 「ルカーチ著作集」7 (マルクス主義美学のために)

高橋義孝・男沢淳・古見日嘉・池田紘一・伊藤利男・土屋明人・古田光・西田越郎訳，白水社，624p. (D)

\* カール・マルクスとフリードリヒ・テーオドル・フィッシャー; シラーの美学に寄せて; 文学理論家および文学批評家としてのフリードリヒ・エンゲルス; マルクスとイデオロギー的頹廢の問題; マルクス＝エンゲルスの美学論稿への手引き; ヘーゲルの美学; 上部構造としての文学と芸術; チェルヌイシェフスキー美学入門

72 「ルカーチ著作集」8 (リアリズム論)

佐々木基一・浦野春樹・菅谷規矩雄・好村富士彦訳，白水社，536 p. (D)

\* 芸術と客観的真実; ブルジョア美学における調和的人間の理想; 作中人物の知的相貌; 物語か記述か; 表現主義の<偉大さと没落>; リベラリズムとデモ

クラシーの闘い；リアリズムが問題だ；ゼーガース＝ルカーチ往復書簡；作家と批評家

- 73 「ルカーチ著作集」10（若きヘーゲル・上）  
生松敬三・元浜清海訳，白水社，420 p.（D）
- 74 「ルカーチ著作集」11（若きヘーゲル・下）  
生松敬三・元浜清海・木田元訳，白水社，560 p.（D）
- 75 「ルカーチ著作集」12・13（理性の破壊・上下）  
陣峻波三・飯島宗亨・生松敬三訳，白水社，523 p. 558 p.（D）
- 76 ソルジェニツィン「イワン・デニソヴィッチの一日」  
佐々木基一訳，「ルカーチ研究」（ルカーチ著作集別巻）付録，白水社，32 p.（D）
- 77 戦術と倫理  
池田浩士訳，「共和国」第1号所収，p.45-71  
\*〔91〕〔104〕に収録
- 78 知識人の組織問題によせて  
議会主義によせて  
日和見主義と一揆主義  
池田浩士訳，「共和国」第2号所収，p.38-41，p.41-49，p.49-55（D）  
\*〔91〕〔104〕に収録

# ●1970

- 79 ブルム・デーゼ（抄）  
伊藤成彦訳，「文学的立場」第1号所収，p.153-165（D）
- 80 「美と弁証法」  
良知力・池田貞夫・小笹俊介訳，法政大学出版局，354 p.（D）  
\*美学のカテゴリーとしての特殊性
- 81 「美学II」（第一部 美的なものの特性）  
木幡順三訳，勁草書房，552 p.（D）
- 82 コミンテルンと組織論の諸問題  
池田浩士訳，「共和国」第3号所収，p.135-162（D）  
\* コミンテルンの組織問題；共産主義政党の倫理的使命；資本家の封鎖，プロレタリアートのボイコット；カッセルとハレ；ドイツ共産党の党大会；大衆の自然発生性，党の行動性  
\*〔91〕〔104〕に収録
- 83 プレヒトその他について

高村宏訳,「世界文学」第35号所収,世界文学会, p.25-28 (D)

\* 「ドイツ文学小史」新版序文

- 84 書評「政治的ローマン主義」(カール・シュミット著),  
「情況」12月号所収,情況出版, p.68-69 (D)

● 1971

- 85 ソルジェニーツィン論

青木順三訳,「文学的立場」第4号および第5号所収, p.129-152, p.147-163 (D)

- 86 「ソルジェニーツィン」

池田浩士訳, 紀伊国屋書店〔現代文芸評論叢書〕, 151 p. (D)

\* ソルジェニーツィン「イヴァン・デニーソヴィッチの一日」; ソルジェニーツィンの長編小説

- 87 「ロマンの魔術師(トーマス・マン論)」

片岡啓治訳, 立風書房, 302 p. (D)

\* 〔47〕〔49〕の改訳

- 88 「ルカーチ初期著作集」(政治編 I)

池田浩士訳編, 合同出版, 368 p. (D)

\* 戦術と倫理〔戦術と倫理; 精神的指導の問題と〈精神労働者〉; 正統マルクス主義とは何か?; 党と階級〕; 法秩序と暴力; 共産主義的生産における倫理の役割; 知識人の組織問題によせて; マルクス主義の最新式克服; 議会主義の問題によせて; 第三インターナショナルの組織問題; 階級意識; 共産主義政党的倫理的使命; 資本家の封鎖, プロレタリアートのボイコット; 日和見主義と一揆主義; 合法と非合法; イタリアにおけるサンディカリズムの危機; カッセルとハレ; ドイツ共産党の党大会; オットー・コルヴィン; ウクライナの民族ボリシェヴィズム; 教育活動の問題によせて; 大衆の自然発生性, 党の行動性; コミンテルン第三回大会を前にして; 革命的イニシアティブの組織的諸問題; コミンテルン第三回大会での発言

- 89 ある批判的回想——「歴史と階級意識」への新しい序文

石渡均訳,「世界文学」第39号および第40号所収,世界文学会, p.20-23, p.18-46 (D)

- 90 レーニン——実践の理論家

編集部訳,「未来」9月号所収,未来社, p.2-8 (E)

● 1972

- 91 「モーゼス・ヘスと観念的弁証法の諸問題」

良知力・森宏啓二訳, 未来社〔社会科学ゼミナール56〕, 99p. (D)

92 思想的自伝

伊藤成彦訳, 「文学的立場」第6号所収, p. 133-157 (D)

93 「歴史と階級意識」序文——思想的自伝

伊藤成彦訳, 浦野春樹編「ルカーチ研究」所収, 啓隆閣, p. 170-213 (D)

\* [92] と同一

94 ベーラ・バルトーク——その25周年によせて——

丸山珪一訳, 浦野春樹編「ルカーチ研究」所収, 啓隆閣, p. 143-168 (E)

95 人間の思惟および行動の存在論的基礎

良知力・小笠俊介訳, 「未来」6月号および7月号所収, 未来社, p. 2-10,  
p. 50-55 (D)

96 アディの意義と影響

丸山珪一訳, 「世界文学」第43号所収, 世界文学会, p. 33-41 (E)

97 「遊び」とそのさまざまな背景

池田紘一訳, 「トーマス・マン研究」所収, 新潮社, p. 401-441 (D)

98 声明

袖井林二郎監訳, アンジェラ・デービス編「もし奴らが朝に來たら」所収,  
現代評論社, p. 362-363 (E)

\* アンジェラ・デービス救援のためのアピール

● 1974

99 ヴィリ・ブレーデルの長編小説

文学における自然発生性理論に反対する

傾向か党派性か

ルポルタージュか形象化か? —— オットヴァルトの長編小説にふれての批判的  
所見

劇作家ヴァンゲンハイム

リアリズムが問題だ

池田浩士訳, 「資料 世界プロレタリア文学運動」第6巻所収, 三一書房, p.  
232-237, p. 244-247, p. 248-257, p. 257-273, p. 283-290, p. 312-337  
(D)

● 1975

100 「歴史と階級意識」

城塚登・古田光訳, 白水社, 560p. (D)

\* [62] の普及版

## 101 「ルカーチ初期著作集」第1巻(文学・芸術論Ⅰ)

池田浩士編訳, 三一書房, 357 p. (D)

- \* トーマス・マンの長編小説「大公殿下」; ベーラ・バラージの詩; 憶憶と形式について; レオー・ポッペル追悼; 悲劇の形而上学; 「近代演劇発展史」序文より; 近代演劇の社会学によせて; 新ハンガリーの劇作家; 映画美学考; 精神の貧しさについて——対話と手紙——; T・G・マサリク「ロシアの歴史哲学と宗教哲学——社会学的研究」書評; 文化社会学の本質と方法によせて; ベネデット・クロウチェ「歴史叙述の理論と歴史」書評; マリー・ルイーゼ・ゴータイン「庭園芸術の歴史」書評; ヴラジミール・ソロヴィヨフ「選集」書評; ナクソスのアリアドネ——パウル・エルンスト生誕五十年によせて——; 美学における主体-客体関係; エーミール・ラスク追悼

## 102 「ルカーチ初期著作集」第2巻(文学・芸術論Ⅱ)

池田浩士編訳, 三一書房, 380 p. (+16 p.) (D)

- \* 古い文化と新しい文化; 「赤旗」の時事評論〔バルザックの死後の名声; ヘーゲルの青年時代; ロシアの批評家たち; アルトウアー・シュニッツラー; バーナード・ショーの末路; フロイトの大衆心理学; ハウプトマンの発展について; アウグスト・ストリンドベルイ十周年によせて; スタヴローギンの告白; ナータンとタッソー; ブルジョワ的唯物論のふたつの時代——モレスコット生誕百年によせて——; ルートヴィヒ・フォイエエルバッハ五十周年によせて; 無神論の問題によせて; マルクス主義と文学史; ブルジョワジーの戦争にたいする挑戦状——カール・クラウス「人類最後の日々」; 書評〔マックス・アドラー「カントの認識批判における社会学的なもの」; K・A・ヴィットフォーゲル「ブルジョワ社会の科学」; エドガル・ツィルゼル「天才概念の成立」; オトマル・シュパン「カテゴリー論」; 「モスクワ展望」の文芸時評〔アンリ・バルビュス「一億五千万が新世界を建設する」; ドイツにおけるトルストイ; ミハイル・ショーロホフ——「静かなドン」第二部; イリヤ・エレンブルク; 「ロシア思想」; ある最新ロシア文学史; 新しい内容と古い形式; 森の工場; ドストエーフスキーの遺稿について; 新しいロシア文学; 集団化のロマン; E・D・ニキーチナ「十三人の女が逃亡する」; 向う側のこと; もっとも神聖な財産; 五年計画の讃歌〕; バーナード・ショーのソ連支持表明; ファシストにされたゲーテ; ゲルハルト・ハウプトマン; ルポルタージュの巨匠——エーゴン・エルヴィン・キッシュ生誕五十年のために; 「左曲線」のルポルタージュ論争〔ヴィリ・プレーデルの長編小説; 文学における自然発生性理論に反対する; 傾向か党派性か?; ルポルタージュか形象化か?——オ

ットヴァルトの長編小説にふれての批判的所感；転禍為福）

●1976

103 「ルカーチ初期著作集」第3巻（政治論Ⅰ）

池田浩士編訳，三一書房，394 p.（D）

\* 法秩序と暴力；戦術と倫理〔戦術と倫理；精神的指導の問題と〈精神労働者〉；正統マルクス主義とは何か？；党と階級〕；教育人民委員就任講演；青年労働者会議での演説；共産主義的生産における倫理の役割；知識人の組織問題によせて；マルクス主義の最新式克服；議会主義の問題によせて；第三インターナショナルの組織問題；階級意識；共産主義政党の倫理的使命；資本家の封鎖，プロレタリアートのボイコット；日和見主義と一揆主義；合法と非法；イタリヤにおけるサンディカリズムの危機；カッセルとハレ；ドイツ共産党の党大会；世界反動と世界革命；オットー・コルヴィン；ウクライナの民族ポリシェヴィズム；大衆の自然発生性，党の行動性；コミンテルン第三回大会を前にして；革命的イニシアティブの組織的諸問題；コミンテルン第三回大会での発言；教育活動の問題によせて；ハンガリーにおける党と青年運動；〈党と青年〉の問題によせて

\* 他に〈党と青年運動〉をめぐる論争（1920—21）の資料を取録

104 「ルカーチ初期著作集」第4巻（政治論Ⅱ）

池田浩士編訳，三一書房，432 p.（+13 p.）（D）

\* またもや幻想政策；ラサール批判〔マルクスとラサールの往復書簡；統一ドイツ社会民主党の理論家としてのラサール；ラサール書簡集の新版〕；ベルンシュタインの勝利；批判と釈明；プハーリン「史的唯物論の理論」；書評〔ネルズン同盟；レーニン選集；マルクス主義の旗の下に；トロツキズムに奉仕するマルクス批判；カール・シュミット「政治的ロマン主義」第二版；ヤーコプ・バクサ「ドイツ・ロマン主義の鏡にうつった社会と国家」/マンフレート・シュナイダー「シェリング社会哲学論集」；ローベルト・ミヘルス「近代民主主義における政党の社会学によせて」；オットー・リューレ「ヨーロッパ革命史」〕；ハンガリーにおける政治・経済情勢とハンガリー共産党の任務にかんするテーゼ（ブルム・テーゼ）；ブルム・テーゼ討議にさいしての発言（1956）；〈自由主義とマルクス主義〉というスローガンについて；マルクス＝エンゲルス全集第一部第六巻；共産党のポリシェヴィキ化にとって「唯物論と経験批判論」がもつ意義；ソ連邦の新憲法と個性の問題；履歴書；文学史の理論によせて；パウル・エルンストの手紙（1915）；倫理的問題としてのポリシェヴィズム；ハンガリー革命の文化政策から〔今後は劇場もまた人民のものとな

ろう！；共産主義の倫理的基盤；勝利したプロレタリアートの戦術；ある文化的な紙上合戦；革命的行動とは何か？；文化を本当に所有すること；真の統一；学生と赤軍；プロレタリア的自己意識の諸段階；社会化された芸術財産をプロレタリアートに引き渡す；ハンガリー共産党第一回大会での発言；報道出版の自由と資本主義；ドイツ＝ヨーロッパ革命の戦列のなかで〔白色テロルの社会的後背地；ハンガリーのプロレタリア独裁はなぜ崩壊しなかったか？；自己批判；ドイツにおける革命と反革命；ドイツにおける大衆ストライキと労働者評議会；祝典の妨害；ドイツにおける共産党と政治的労働者評議会；ドイツの〈危機〉；嵐の前に〕

## ●1977

- 105 「芸術と社会」序文・1967年

平井俊彦訳、「未来」6月号及び7月号所収，未来社，p.2-8，p.27-33  
(E)

- 106 議会主義の問題によせて

同志ルカーチの「赤旗」編集部あての釈明——批判と釈明——  
ブハーリン「史的唯物論の理論」

共産党のポリシェヴィキ化にとって「唯物論と経験批判論」がもつ意義  
その判定は安んじて歴史にゆだねよう——「歴史と階級意識」新版への序文  
池田浩士編訳，「論争／歴史と階級意識」所収，河出書房新社，p.370-379，  
p.383-384，p.385-393，p.394-401，p.402-428 (D)

## ●1978

- 107 「美学Ⅲ」(第一部 美的なものの特性)

後藤狷士訳、勁草書房、368 p. (D)

- 108 「芸術の哲学——ハイデルベルク美学論稿1912-1914」

城塚登・高幣秀知訳、紀伊国屋書店、334 p. (D)

- 109 シラーとゲーテの往復書簡

志村博訳、ハンス・マイヤー編「ゲーテ全集」別巻(ゲーテと現代)所収，  
潮出版，p.449-483 (D)

- 110 映画の美学覚書

池内紀訳，「現代評論集」(世界の文学38)所収，集英社，p.65-71 (D)

## ●1982

- 111 占評・ユダヤ神秘主義

モルナール論

読書歴

丸山珪一訳,「金沢大学教養部論集・人文科学編20」所収, p.171-180 (H)